

J S A F 外洋総務委員会（合同）会議 議事概要

2010年10月2日

文責：野田 裕二

日 時：2010年10月2日（土） 13：00～18：00

場 所： 岸記念体育館101号会議室

出 席：植松眞副会長、児玉萬平常務理事、鈴木保夫外洋総務委員長、外山昌一理事、坂谷定生理事、吉田豊理事、浅野英武委員、山本高靖委員、近藤等委員、平井昭光委員、野田裕二委員、大坪明外洋安全委員長、本田敏郎レース副委員長、斜森保雄IRCオーナーズ協会会長、坂本賢司IRCオーナーズ協会事務局長、長谷川淳JSAFレース委員会委員（外洋計測委員会委員）、大河原外洋学生連盟委員長、寺澤寿一事務局員 合計18名

外洋総務委員会（合同）会議は定時に開会され、鈴木外洋総務委員長を議長、議事録作成・署名を野田委員が指名され開催された。

初めに議長より当外洋総務委員会（合同）会議の位置付けについて説明があった。

外洋関係の最高議決機関として加盟団体長が加わる外洋会議があるが、本会では主に外洋系におけるレース、安全、艇登録、総務等専門領域の課題を討議し、各事項に対し可能な限り結論を出し、その決議を必要に応じてJSAF理事会に提出したい。加盟団体にかかわる内容がある場合は再度別の会議で討議する必要がある。

次に植松副会長から開会にあたり以下のメッセージがあった。

ここ数年登録艇及び会員の登録が減少しているが、外洋としての発展のためにこの場で十分討議を行い決定し実行に移し活発な活動としたい。特に会費収入が増えない限り思った活動もできないので会員の増加と艇登録の強化を推進したい。

協議事項

<外洋レース委員長代行人事について>

本田副委員長は仕事上で十分な活動が出来ない状況となり、委員を辞任し羽柴宏次氏を代行としたい旨申し出られた。協議の結果、本田氏が次期改選までは委員に留ることを条件に羽柴氏の代行就任が承認された。

レース委員会からの要望として、多種の依頼が寄せられている。そのためレース委員会の負担が増えている。本来レース委員会はディンギー系外洋系に関わらず各種規定、レースマニュアルの作成、管理などであり、レース運営やスケジュール調整などは加盟団体などレース関係者で行って欲しい。

< レース委員会外洋小委員会検討内容について >

* レース委員外洋小委員会構成に関して

各加盟団体内のレース委員長の交代についても実態が把握されていない、これらの点について総務委員会より各加盟団体でのそれぞれの委員会の役割等に関してアナウンスして頂きたい。加盟団体の組織・構成をお願いする。

新たな委員会協力者をメンバーに加える（正式に羽柴代行の基、明日からでも始めます。）

* 外洋小委員会検討事項に関して

外洋系 J S A F 加盟団体レース主催に関する留意事項の文章が完成しております。

（レース運営に関わる各種ファイル一覧もあり近々配布予定）

* J S A F 運営規定第 2 章の検証に関して

現状に合わない部分は早期改訂が必要である。

1 月に開催される会議に提出し決定させたい。

検討グループにはルール、安全、等各委員会メンバーも参加しているので総務委員より要員を出して欲しい。との要望が出された。

* 危機管理マニュアルに関して

前安全委員長浪川氏制作文書、外洋東海制作の沖縄東海レースの文書、メルボルン大阪での文書等を早急にとりまとめセーリング中に起こり得る危機に適切に対応・処理するものが必要である。

* オープンレース及び オープン・クラスに関して

ルール規則上の問題等を考えある程度の指針をしめす必要があるのではとの意見がありました。

レース委員外洋小委員会構成図が周知徹底されていない、レース委員長等の交代しているところもあるが実態が把握出来ていない。外洋系レースガイドとしては 2010 / 03 / 31 があるが、主催者の注意事項（ガイド）が添削中、外洋系レース危機管理マニュアルも作成中で J S A F 運営規定第 2 章の検証も早急に行い 1 月に開催される会議に提出し決定させたい。

J S A F 運営規定第 2 章の適用除外は基本的に行いたくない。見直しはレース委員会で行ってほしい、時代に合った柔軟な対応が必要ではないかとの意見が出された。連絡事項が徹底されていないようである、レース委員長の交代についても実態が把握されていない、これらの点について総務委員会よりアナウンスして欲しいし、検討に際し総務委員より要員を出して欲しい。との要望が出された。

< 外洋系特別加盟団体加入申請について >

日本IRCオーナーズ協会及び日本学生外洋帆走連盟より加盟申請が提出され外洋組織として事前協議を行う。特に前者は前回討議が未了のままであったので一定の結論が出るよう討議した。

日本IRCオーナーズ協会・斜森会長より「一般的に独自のレーティングを使ったレースが多く開催されているが、JSAFの公式レーティングであるIRCを使ったレースを月一回程度主催したいので特別加盟団体として加盟を希望する。協会としてはレースへのカップの贈呈や支援を行いIRCレーティングの普及と伴に登録艇を増やしたいと思っている」と加盟希望へのコメントがされる。

懸念としてレーティングは時代と伴に変化するのでメンバーが少なくなることによる組織の存続、レースが多くなり（特に関東水域）他の団体とのレース調整が困難ではないかなどの意見が出されたが、大勢は肯定的な意見であり、理事会へ推薦ことに決定された。

日本学生外洋帆走連盟・大河原事務局長より「学生外洋として9大学のヨット部（千葉大学は現在休部）がありRRSを使ったレースを開催したい。また学生世界大会へ代表を送るための選考レースを3月にワンデザイン艇を用いて開催したい。」と加盟へのコメントがされる。同団体は以前にも特別加盟申請をしたが、当時は学生主体の組織で、危急の際の責任能力に不安があるとして却下された経緯がある。今回は組織体制を変更し会長・顧問はOB社会人となっておりその問題をクリアーしている。

付帯意見として、「ヨット保険の加入を必須とすべき、レース開催時にはチェックすること、現在JSAF会員20名と加盟要件ぎりぎりだが今後会員を増やすよう努力をお願いする」等があった。また、入会にあたりJSAF会費の学生料金を適用するかについて質問があったが、当面、外洋加盟団体ルールで一般と同じ扱いとすることとした。

本件は理事会へ推薦することに決定された。

< 新公益法人化について >

JSAFは平成24年度より新公益法人法下の団体になることを目指している。一方外洋組織として自律的な活動を目指すべく特別会計を模索する動きがある。そういう中で外洋としてどうやって新公益法人化に対応すべきかについて意見交換をした。

新公益法人では公益目的事業毎の会計となり、現在検討されている区分は主に「普及」「強化」「規則と計測・安全」「その他」に集約されている。つまり外洋個別の事業区分ではなくもっと大きくりの区分にならざるを得ない。

これに対し、そのくくりの中でも外洋独自の事業区分を探れないか、必ずしも特別会計にこだわる必要はないのではないか等の意見があり継続検討となった。

平成21・22年度役員の任期満了に伴い平成23・24年度役員の選出選挙を実施するが、選出された役員は新公益法人への移行のため旧法と新法をまたぐことになる。新公益法人化に伴い定款が変更され（現在は案の段階）個人でも構成員になる見込みである。

< 来年度以降の外洋組織検討と理事選出について >

新公益法人移行もあり、引き続き外洋から理事を選出させたいと思っているので自薦他薦にかかわらず立候補をお願いしたい。

今後の外洋推進グループの会議体をどのように行うか検討。外洋会議（従来の外洋統括会議）の出席者は各加盟団体長、外洋選出理事、水域理事、総務委員、専門委員長で総勢 27 名となり開催が難しい。頻度や開催場所はどうするかの意見をもとめたところ、困難でも年 2 回は開催して欲しいが大勢であり、いずれにせよ出席者が担当地区の意見をまとめていることが重要であるとなった。

会議日程は新年会に合わせるほか、秋までにもう一回の開催を検討、開催地区が東京となっているが団体長会議だけでも関東、関西、東海で持ち回りとしてはどうか、などの意見が出され、総務委員会で検討後案内することになった。

< 艇登録・メンバー登録推進活動について >

艇登録のデータベース入力修正は順調に進んでいる、西内海・いわき・津軽海峡・東海からチェック完了の報告が出ている。

艇登録及び会員登録の推進に関しては外洋東海の事例が紹介された。数年前より「外洋ヨットセールナンバー適正使用ご協力のお願い」「艇登録、セールナンバー表示のお願い」の案内をだされ、ならびにセールメイカーやヨットメーカーにも同様な案内をだされセールナンバーの適正利用及び艇登録の推進を行っている、会員登録の推進のためマリナーやマリンショップ、ホテルなどより協力を得会員特典としてゲストパスやヨット用品、宿泊費の割引を行うなど行い、その結果自然減少を上回る入会があり順調に艇登録、会員登録とも増加している。このような例を各加盟団体にも紹介し艇登録及び会員登録の推進をお願いする。

艇登録及び会員登録の推進のためにもオープンレースのみでのレース開催を行わない、オープンレースの参加艇に上限を設ける、レーティング取得艇とオープン参加艇の表彰内容を変えるなど差を設ける、オープン参加枠を年々少なくする、乗員数で未登録者の上限枠を設ける、レース参加希望艇が未登録艇であった場合艇登録を促すなど積極的な推進が必要だとの結論になった。

艇登録及び会員登録の推進のため、ハーケン株式会社の協力による募集チラシを作成したので配布したい。登録費用の記載方法でかなり時間を費やしたが J S A F メンバー料金 6,500 円 + 艇登録料金 3,000 円と別途各加盟団体入会諸費用が必要と載せることにした。このチラシ配布に対し全員の承認が得られ配布が決まった。

< 外洋系表彰対象検討について >

外洋系で貢献した方を表彰したいと思うがどのような表彰基準が良いか、海外レースでの健闘、レース成績連続優秀、レースへの参加回数が多い、功労賞など意見が出されるが各加盟団体で推薦し協議の上決定することになる。

また Q-ton カップを記念したカップが創設され、優秀な外洋ヨット乗りに与えられることとなったことが紹介された。

<各委員会報告>

計測：IRC申請は年々増えている既に昨年の登録数を越え328艇であった。当初は400艇を目標としたが残念ながら達成出来ない見込みである。東北、北海道での登録が進まなかった。

安全：計測と一緒に直接講習会を開催する予定、2月には鹿児島で開催予定している。今後各地の負担とならないように、こちらから出向いて講習会を開催予定、関東地区は主要レース前に開催を予定している。

<各水域報告>

出席されている加盟団体：既に報告済みで、特に追加報告すべき事項はない。

<来年度レーススケジュール>

東海：来年のパールレースは湘南と相談し決めるが、ほぼ7月の最終週で考えている。

次回ジャパンカップはJSAFと相模湾3団体主催で検討中、時期は9月か10月を予定。主幹を三崎が行いたいとの話が出ているが確認中である。

今後各加盟団体の主要レースの開催時期について情報交換しスケジュール調整を行い参加しやすいレーススケジュールにしたい。

<その他>

2013年にブラインド世界選手権を日本で行うが、湘南方面で行う予定である。レースには参加者以外に選手支援者もいるため収容できる会場やホテルに限られる、また環境整備が必要になることも予想される。